

民報 ゆうばり

「自治基本条例」夕張での活かし方を学ぶ!

情報の共有や市民参加・協働などの自治をめざして

夕張再生の大きなキーマンを生み出す「住民自治」は?

「ゆうばり再生市民会議主催学習会」

「自治基本条例」市民の意識改革

再生市民会議主催

加しました。

講師に地方自治が専門で夕張の財政破綻問題を研究されてきた、酪農学園大学

3月2日市民研修センターに於いて、ゆうばり再生市民会議が主催する「夕張再生の要となりうる『自治基本条例』をめざして」と題する学習集会が開かれました。この学習会には一般市民にも参加を呼びかけ46名が参

加しました。講師に地方自治が専門で夕張の財政破綻問題を研究されてきた、酪農学園大学教授河合博司さんを迎え「夕張再生の大きなエネルギーを生み出す『住民自治』とはなにか」とのテーマで話が進められました。

「条例」は住民の自治意識を高揚させてこ

そ生かさるる

まちづくり基本

条例が施行されていくにせよ、具体的な条例を示しながら「行政の執行機関である自治体の職員・

議員がいかに市民の信頼と熱き想いを受け止め実践するか、その一方で市民の一人一人がその目的や目標にむけてどのようにかかわれるか、そのような自治意識を高めなければ条例は生かされない。仏作って魂入れずの諺があるように夕張再生の要がそこにある」と指摘されました。

定している」と具體例を示し、さらにニセコ町では「それを継承するために新しい首長が就任した時には、町長がこの自治基本条例に署名することを義務づけている」と実効性を確保する例を紹介しました。

情報の共有と町民参加を進め、市民もみんなで自治を築くこと

美幌町の基本条例では「町民、議会、及び行政、それぞれ

の役割と責務を改めて認識し、町民主権による自治を確立することを決意し、とあって、ここには住民自治を保障しその発展に貢献する行政と議会のあり方を規

道州制など厳しい

状況や賃金切り下げ

など公務員攻撃もある中で、自治体職員の圧倒的力量的強化が求められていると前置きし「自治体職員が住民から学び、住民に説明できる力量と、公務の概念を通じて進化する」とい



この点で美幌町は

「条例制定後の取り組みで、町長の付属機関として「自治基本条例推進委員会」を設け、常時検証する議論をおこなっている。また、役場の中に職員が縦割りを超えて推進委員会や勉強会を設置し、常に条例に立ち戻って自分たちの仕事をチェックしていくという努力がある」と話されました。

参加者の感想

情報公開や市民参加・協働とは何かを学んだ

「夕張の再生に期待しています」と河合先生は夕張財政破綻問題と自治基本条例の取り組みについて「共通するところは如何にしてみんなが参加することができているのか。「協働」という概念をあてはめることがあるが、行政職員・議員・市民が対等の立場で、それぞれの専門を活かして、本音でぶつかりあうことをお互いに尊重すること、それが住民自治の基本原則」と強調し「夕張の再生は日本の自治体問題の貴重な宝になる」と期待をこめて講演を終わりました。

参加した市民は、「自治体の基本ルールだから、市民参加についてはあまり気にしてはなかった。お話をうかがって、行政が何かしてくれらるだろうとか、議員が考えてくれるだろうと、人任せではない」と感じました。市民、行政、議員のそれぞれの立場でより積極的に参加することを学びました」と、感想を述べていました。



夕張再生の要となりうる『自治基本条例』をめざして
講師：河合博司さん（酪農学園大学教授） ゆうばり再生市民会議

「夕張市議会基本条例」4月1日より施行

2月28日、臨時議会において夕張市議会基本条例が採択されました。

この条例では、前文の中で「全国唯一の財政再生団体の議会として、今後果たすべき役割を強く認識する」とし、「情報公開を基本とする」「市民に対する説明を十分にを行う」「議員間の自由討議」「広報

活動の充実」「市民および各団体との意見交換会」「年1回以上の夜間議会」「執行機関による反問権」等が明記されました。

2006年5月、隣の栗山町議会が全国に先駆けて制定し、今では先進的な数十か所の市町村で施行されています。

2013 「国際女性デー」

春をよぶ夕張集会開かれる！

3月9日、「国際女性デー」夕張集会が開催されました。この日は、朝から吹雪という悪天候でしたが26名が参加しました。

沓澤里美実行委員長、筒井勇治夕張労連議長とくまがい桂子日本共産党夕張市委員長のあいさつの後、鈴木直道夕張市長と紙智子参議院議員、森つねと党道国政相談室長のメッセージが紹介されました。



第一部は、あれから2年過ぎて、『福島の子供達を保養に・夕張へ』と題して、くまがい桂子さんが、「原発事故から2年、まだ事故は続いているのに、安倍政権は経済を優先して、事故を忘れさせようとしている」「電力は足りているのに再稼働するという危険な動きがある」などと指摘しました。また、昨年保養に夕張を訪れた福島の子供達のいきいきした様子をスライドで紹介しました。

第二部は、波多野信子さんのうたとピアノ「春を呼ぶコンサート」で、波多野さんが夕張で作られた曲など全13曲が演奏されました。「三番方節」には応援も加わって、歌声とピアノの音が会場をあたたく包み込みました。



夕張夢再生館 夕張サッカー協会 クラウドファンディング (ITによる資金募集) 順調にスタート！



被災者支援ネットワーク夕張夢再生館では、昨年引き続き、福島の子供もたち夕張で夏休みを楽しみ、保養してもらうことなどを企画し、初のインターネットによる資金集め「クラウドファンディング」をスタートさせました。目標額百万円をめざして取り組み、11日現在13人から15万1千円が寄せられています。



国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

紙 智子

「再稼働は論外」

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から二年目となる、三月九日、志位和夫委員長をはじめとする党国会議員団と福島県議会の福島第一原発視察に私も同行することができました。

「百聞は一見に如かず」といいますが、とても「収束」などと呼べる状況ではないと思いました。入口ではボデーチェックを行い、全面マスクと防護服に身を包み、バスで敷地内に入りました。まず目につくのは、一号機から三号機の原子炉内の溶融燃料を冷やす設備のホースがいたるところにあり、行く先々に高濃度の放射性物質を含む汚染水をためる、タンクの群れ。一千トンの容量のタンクの高さが十数メートルもある大きなものですが、毎日四〇〇トン、二日半でいっぱいになります。

増え続けるタンクはあと二年しかもたないことから、東京電力は、この汚染水の濃度を薄めて、海に流す計画です。「放射能物質がすべて除去できるのか」と聞くと「トリチウムは除けない」と言います。この事自体、大問題です。

四号機の建屋にエレベーターで上り、上から下をのぞくと、ふさいである蓋の隙間から、使用済み核燃料のプールに、水がたまって見えた。使用済み燃料を取り出して、移すための建屋を建設中です。線量計は三〇〇マイクロシーベルトに上がりました。三号機から二号機、一号機付近を通り過ぎる時には、一〇〇〇マイクロシーベルト。

廃炉にするこゝろ日本も食を半う困難な作業よりこゝ